

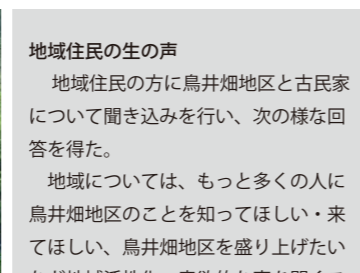
鳥井畑活性化 PROJECT

▼問題背景

全国各地に存在する古民家はその土地の歴史、文化及び伝統を表すもので、地域の魅力の一つであり、古民家再生といった地域おこしが行われてきている。しかし現在、日本では古民家の数が約156万棟あり、全国平均の空き家率の約13.5%に当てはめると約21万棟の古民家が空き家になっているとされている。その古民家を再生し、地域活性化を行う住民がそれを地域資源として捉え、組織づくりなどを通して地域一体となり、古民家の再生・活用へ繋がる。そして、古民家を地域の課題解決のツール、拠点として使うことで地域に欠かせない「場」となり「核」となる。(引用：総務省統計局「平成25年住宅・土地統計調査 特別集計」)

▼対象敷地

対象とする敷地は福岡県豊前市大字鳥井畑地区だ。この地区には豊前市にある求菩提山を支えてきた鳥井畑集落が存在し、この集落を中心として広範囲に伝統的な石積みの棚田がある。また、ツチ小屋と呼ばれる農作業用保管する施設も見られる。全体としては母屋と馬屋をセットにした屋敷構えの住宅だ。この様な集落と石垣の棚田を有する農村景観の融合は他地域では、なかなか見ることが出来ない。しかし、この地区は、集落の高齢化や人口減少の進行により過疎化に向かっている為、空き家や使われていない未整備の棚田が増加しているなどの問題点がある。



未整備の棚田と比較して、この地区の特徴である石垣の棚田だが、雑草が生い茂り、物置の様状態になっている。美しい景観を保っている。石垣が見えなくなっている。

地域住民の生の声

地域住民の方に鳥井畑地区と古民家について聞き込みを行い、次の様な回答を得た。

地域については、もっと多くの人に鳥井畑地区のことを知ってほしい・来てほしい、鳥井畑地区を盛り上げたいなど地域活性化へ意欲的な声を聞くことが出来た。

古民家については、この古民家を再生したい、古民家を外部の人と地域住民との交流の場にしたい、地域住民の憩いの場にしたいなど、この古民家に対する思いを聞くことができた。

否定的な声がなく地域住民の大多数が地域活性化・古民家再生にむけ意欲的なことを知れた。

▼目的

この鳥井畑地区の住民の方は上記で挙げているように地域を盛り上げたいなどの意見から地域活性化を提案したい。私達は地域活性化には来訪者を外から呼び寄せるだけではなく、地域に引き込み、地域を存続させることや地域資源に新たな循環を与え、地域に価値を還元することだと考える。また、存続させるためには地域に対する愛情、誇りなどの感情を育むこと、地域住民が地域のことを考えることが必要だと思う。そこで、私達が考える地域活性化を行うために観光ではなく定住という形で地域に引き込み、地域の活動をしていくうちにその地域に対する愛情、誇りなどの感情が育むのではないかと考えた。そこでできたのが山村留学だ。私達は、この山村留学というプログラムに古民家と未整備の棚田を組み込んだプログラムを考えて、地域活性化を促していこうと思っている。

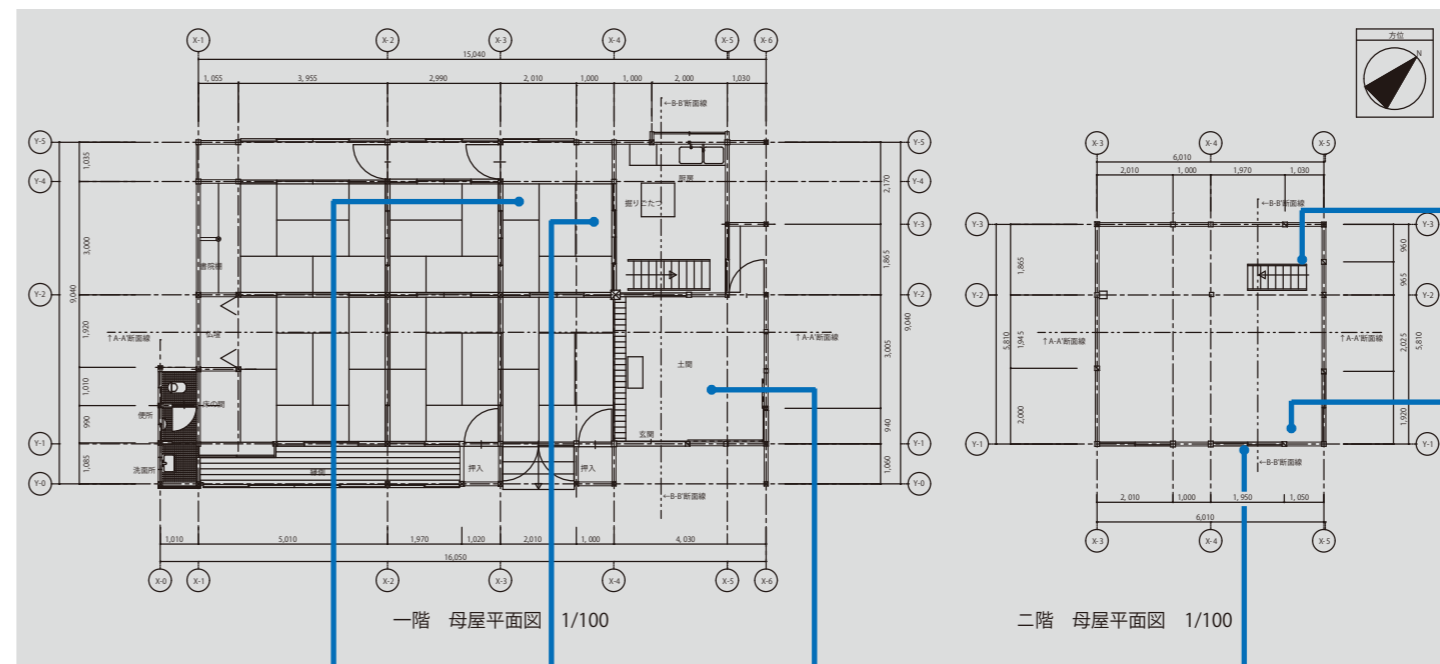
※山村留学とは

山村留学とは、都市部の小学校や中学生が長期間に渡って親元を離れ、自然豊かな農山漁村で生活すること。夏休み・冬休み・春休みを利用したものや短期山村留学、1年間単位で実施するものを長期山村留学とすることもある。

四季を通した様々な自然体験、キャンプなどの野外活動、小規模校での授業、地元との交流など、たくさんの体験が待っている。また、子どもだけでなく、保護者の皆さんにも地域や保護者同士の交流が生まれ、家族全体の体験の場となっている。

(引用：NPO 法人全国山村留学協会)

▼古民家調査

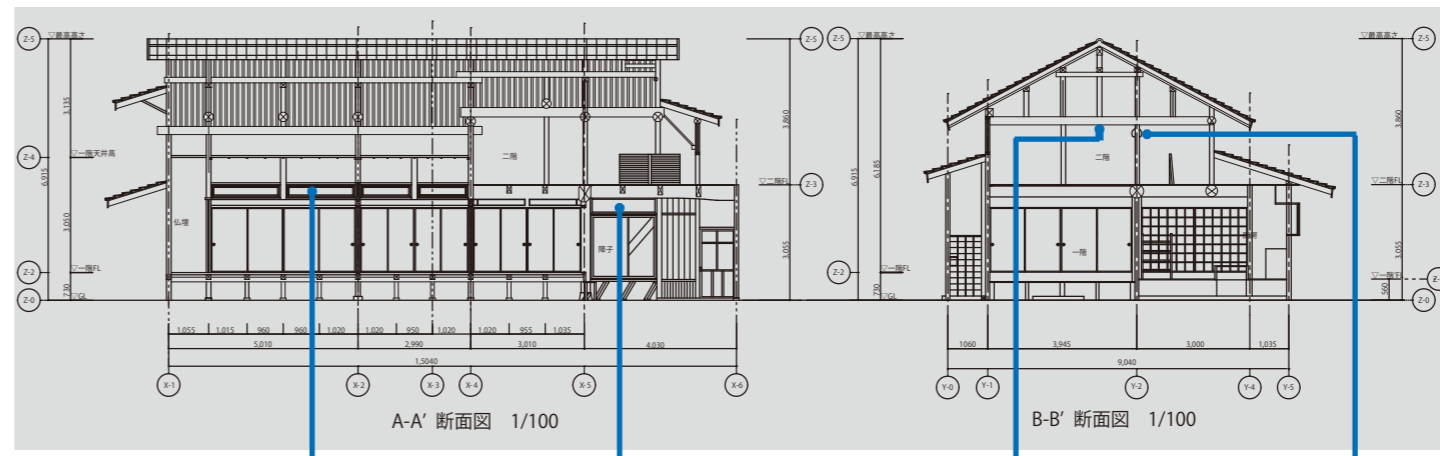


石や竹が当たりダメになったと推測される。今はブルーシートと板で応急処置。

屋根と二階からの雨漏りにより一階の畳が腐食している。

以前、骨董市をしており人が集まる場として利用されていた時の名残。

手作業で作っていた時に作られたガラス。その証拠に少し景色が歪んで見える。



左は欄間と推測したもので、右はこの地域特有の欄間だと推測したもの。右の欄間は左の欄間と比べて比較的新しく見える。左の欄間は欄間の模様が木目をそのまま使っているので専門業者ではない人が作ったと見える。

二階に天井はなく直接小屋組が見える。使用していないほぞ穴があり、違う場所から部材を運びそのまま使用したらしい。

土壁を突き抜けている梁、外壁も突き抜け外からも見える。なぜ切らずに残したのかは不明。



二階にある間口と大きさがあっておらず、どこから持ってきたと推測される。つっかえ棒で支えているだけ。



屋根からの雨漏りによって床が腐食しており、床が抜けそうになって大変危険である。

古民家(母屋)の実測調査を行ってきた。今の住宅にはないつくりや、古民家ならではのしかけ、年月による傷みや劣化があり、少しだけこの古民家の歴史を感じることができた。写真は気になった箇所や傷みがある箇所を少しだけ抜粋した写真だ。

▼今後の予定

古民家の測っていない箇所の実測調査を行い、図面をおこし、古民家の模型を制作。古民家の模型や図面で確かめながら再生後の古民家のプランニングを行う。古民家再生のプランを地域住民にみせ、意見交換を行い、修正、この手順を繰り返し、古民家再生の図面・模型制作を行う。地域活性化のプランニングも同様の手順で行う。

▼スケジュール

7/17,30,31	実測調査 現地調査
8/1~8/9	納屋平面図 立断面図 展開図の作成
8/10~8/31	古民家模型制作 (before)
9/1~9/9	古民家のプランニング
9/10,9/11	地域住民との打ち合わせ
9/12~9/22	プラン修正
9/24,9/25	地域住民との打ち合わせ
10/1~10/20	古民家模型制作 (after)
10/21~10/31	地域活性のプランニング